

「ことば」シリーズ4

# 外来語

文化庁



「ことば」シリーズ4

外 来 語

---

昭和51年7月20日初版発行 定 価 250 円  
昭和54年6月15日四刷発行

編 集 文 化 庁

発 行 大 蔵 省 印 刷 局  
東京都港区虎ノ門二丁目2番4号  
03 (582) 4411

---

落丁、乱丁はおとりかえします。

## 前 書

文化庁では、昭和四十七年六月の国語審議会からの建議「国語の教育の振興について」に示されている「国語が平明で、的確で、美しく、豊かであることを望み、この際、国民全体が国語に対する意識を高め、国語を大切にすることを養うことが極めて重要である」という趣旨に基づき、昭和四十八年度から「ことば」シリーズを作成し、これを各学校、各社会教育機関等に広く配布することになっています。

このシリーズでは、話し言葉、書き言葉を問わず、国民各層から広く関心の持たれている言葉に関する問題を取り上げ、その内容や言語生活における在り方について、専門家や学識経験者等により、分かりやすく解説などを加えていこうとするものであります。それは国民の言語生活について、あるべき標準を示そうとするものではなく、我々が我々自身の言葉について考えたり話し合ったりするきっかけとなることをねらいとしております。

本年度は、「ことば」シリーズ4として、「外来語」の問題を取り上げることとして、企画委員会において構想を練り、内容や執筆分担について相談してこの本を作成しました。

この本は、

一 総論を兼ねて、外来語に関する諸問題を話し合った座談会

二 問題になる点に関する解説七編

三 参考資料 国語審議会報告「外来語の表記について」

の三つの部分から成り立っています。

現在、日常の生活の中のいろいろな分野で、目に触れ、また耳にする機会の多い外来語にかかわる問題について、

日本語における外来語は、現在どうあるのか、また歴史的に見てどうであったか等を見直し、また考えるための参考としていただきたいと考えたものです。そして、そのことを通じて、広く国民の間に国語に対する認識が深まり、国語を大切にする精神が高まっていくことにお役に立つこととなれば、誠に幸いと存じます。

なお、この計画を進めている際に、フランスでは氾濫する外国語から自国語の純粹さを保とうと、フランス語の使用に関する法律が出されるということもありましたが、本シリーズではこの問題を取り上げて論ずる十分な時間的余裕がありませんでした。後日待ちたいと思います。

また、「敬語」「言葉のしつけ」「外来語」に対して、問答編とも言うべき「言葉に関する問答集1」（シリーズ3）「言葉に関する問答集2」（シリーズ5）をも「ことば」シリーズとして、昭和五十年年度までに刊行しています。併せて参考にしていただければ幸いです。

昭和五十一年三月

文化庁文化部国語課長

石田 正一郎

企画、執筆等に御協力くださった方々

(五十音順、敬称略)

氏名

現職

石綿敏雄

国立国語研究所言語計量部第三研究室長

井沼敏子

お茶の水女子大学文教育学部附属小学校教諭

岩淵悦太郎

前国立国語研究所長

菅野謙

NHK総合放送文化研究所員

久世善男

朝日新聞出版局事典編集室

戸塚文子

評論家

外山滋比古

お茶の水女子大学教授

古田東朔

東京大学教授

松村明

東京大学教授

南不二男

東京外国語大学教授

村尾清一

読売新聞論説委員

目次

前書き

座談会

外来語をめぐって……………1

岩淵悦太郎(司会)

石綿敏雄・戸塚文子

外山滋比古・村尾清一

解説

一 外国語と外来語(松村 明)……………21

はじめに

第一 外来語の沿革

第二 外来語の諸相

二 外来語を受け入れる心理(外山滋比古)……………32

三 外来語の表記(久世 善男)……………41

第一 表記の方針

第二 国名と地名  
 第三人 名  
 第四 学術用語

四 訳語の問題(古田 東朔)……………47

はじめに

第一 漢訳語の形成

第二 和語の訳語の試み

第三 漢訳語の特色

むすび

五 外来語とマス・コミュニケーション(菅野 謙)……………54

はじめに

第一 マスコミ言語の影響力

第二 マスコミでの外来語の使用

第三 マスコミでの外来語の抑制

第四 マスコミで使っている外来音

六 和製英語と国際通用語(石綿 敏雄)……………65

第一 外国語学習における外来語の功罪

第二 日本製の外国語

第三 国際通用語

七 国語教育上の諸問題（井沼 敏子）……………74

—— 小学校の場合 ——

- 第一 児童たちは外来語にどう接しているか
- 第二 小学校の国語科では外来語をどのように取り扱っているか
- 第三 教科書にはどのような外来語がどれくらい用いられているか
- 第四 外来語を指導する際にどんな教材があるか
- 第五 児童たちは作文でどのような外来語をどのくらい用いているか

参 考 資 料

外来語の表記について（昭和二十九年三月十五日 国語審議会報告）……………90





## 座談会

# 外来語をめぐって

### <出席者>

岩	淵	悦太郎 (司会)
石	綿	敏雄
戸	塚	文子
外	山	滋比古
村	尾	清一

(五十音順)

## 国際的に通用する外来語

岩淵 世間では外来語が氾濫していると見ている人が少なくないように思われます。もちろん必要な外来語もあるでしょうが、中には使わなくてもいいと思ふようなものもあります。この間横浜の駅の下にある喫茶店でコーヒーを飲むうと思つたら、目の前に「フレッシュな冷たさ、ナウな味覚、新しいスタイルの高級ケーキをどうぞ。」と書いてありました。半分くらい外来語ですね。このごろ国鉄の駅の売店ではKIOSKとローマ字で出していますね。

戸塚 あれは弘済会売店がKIOSKになったのですが、あれはもとは……。

村尾 トルコ語ですね。

戸塚 実際に私が「KIOSK」という言葉に初めて出会ったのはスウェーデンでした。この言葉は非常に広い範囲、中近東からシルクロード沿い、ヨーロッパのいろいろなところで通用するんですね。その時、昭和六年に買った英和辞典を引いたら、小さな売店とかスタンドとかの意味というように出ていた。イスラエルあたりでも使っています。

そういう意味で、この座談会の初めにはっきりさせておきたいのは、国際通用語になっている日本語がある、ということですよ。日本人は日本語だと思つて使っているのに、外国へ行ったら幾らでもそのまま使えるのに、使わないで

いる言葉がたくさんあります。日本人は外国語、外来語だと思つているが、実際は地球上の非常に広い範囲で通用して、もう今や地球語とも言えるようになってきている言葉はここでお扱いになりますか、どうですか。

岩淵 外来語の中には、そういうものもあるということをお肝に銘じておきましょう。(笑)

戸塚 日本人は島国で、一億とらわれ人みたいなものですから、民間人はバスポートと外貨を頂かないと、一歩も出られない。だから、日本を離れたら、自分の言うことは何も通じないと思つている人もいます。ところが、たくさんの言葉が使えます。日本語だと思ひ込んでいる「マッチ」「ホテル」「レストラン」「タクシー」……、こんなのは世界中で使える。それから、お茶も「ティー」「テイ」「チャイ」、全部「茶」から出ているのですから、それに似たような音を出せば、お茶がコーヒーかと聞かれた時に、コーヒーと間違えられることはないわけです。「ナイフ」「スプーン」「フォーク」これらも大体世界中どこへ行つても、レストランでそう言えば、その国自体の言葉があつても通じます。そういうことも啓蒙していただくといいのではないかと思います。あるいは「ファン」とか。あれを「ファン」と発音してはいけません。このごろ若い人は「ファン」と言うようになったでしょう。むしろ現在の段階では、一体日本語になり切つていゝる外来語なのか、それとも生で

しか通用しない外国語なのかということがなかなか難しいのではないかと思います。

岩淵 我々がレストランへ行きますと、練習させられまして、「ライス」ですわって教えてくれますね。

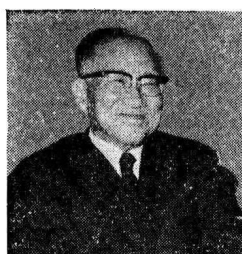
戸塚 お皿に乗ってれば「ライス」で、どんぶり鉢に入っていれば「御飯」と。

岩淵 そういうしつけを受けているものですから、外国へ行っても間に合うことになる。(笑)

戸塚 「牛乳」はびんに入っていて配達するもの。グラスに入ってくれば「ミルク」と言わなくてはいけない。そういう使い分けは大分教えていただきました。(笑) いろいろ難しいですよ。

村尾 「ライスカレー」と「カレーライス」も違うという説がありますね。別々になっているのが「カレーライス」で、一緒に盛ってあるのが「ライスカレー」。これははっきりしません。(笑) ライスカレーよりもカレーライスの方が、少しきちんとした店の、高い値段のもののような感じですね。

戸塚 *curried rice* ですから、「カレーライス」と言った場合は別なんですよ。ライスカレーと言うの



岩淵悦太郎氏

は、ライスの上にカレーがかけてある方……。

石綿 それだけ日本語化しているわけですね。

戸塚 そして、非常に日本人の気持ちに合っていますよ。

石綿 そうい言葉は一種の和製英語ですね。それがそれだけ出来たということは、我々の生活の中にある程度溶け込んでいるということではないですか。

### 和製英語の傑作

外山 日本で出来た和製英語で傑作なのは「ナイター」です。これはまだ国際的に公認されていないのですが、「ナイトゲーム」よりは短くて、非常にいい。アメリカなんか輸出出来ると思います。

戸塚 アメリカでは「ナイター」は通じませんか？

外山 通じません。「ナイター」はナイトキャップ(寝酒)

の意味で使ったり、芝居の初日に行く時に「ファースト・ナイター」と言ったりしますが、ナイターという言葉は、日本人がつくるはずはないと思って、アメリカの大リーグやコミッションナーに手紙を出して、どこかで使っていないか、日本では使っているなどと言いましたら、どこも使っていないと言います。「タイム」のスポーツ編集部に聞いても使っていない。どうも、昭和二十五、六年に後楽園で出来たらしいですね。これは英語の造語法から言っても非



外山滋比古氏

常に近い。無理のない造語ですから。ただアメリカでは、今のところ「ナイトゲーム」と新聞なんか無理に入れていますが、「ナイター」の方がスベリングは短いし、非常にいい。今は外来語の形をしています、これは日本がつくった傑作ですね。輸出可能品です。

村尾 「ホーム」もそうですね。ホームランのこと。

石綿 それから、「バンティストッキング」というのがありますね。

村尾 バンスト。

石綿 あれを、アメリカ人、イギリス人、ニュージーランド人、オーストラリア人といった何人かに並べて聞いてみました。そうすると「バンティフォーズ (Banty hose)」と言うのが普通だと言っています。一人だけハワイで日本語のとおりに言うと言っていますね。これは恐らく日本から英語を輸出したのかもしれないですね。だから、今や日本はテレビやラジオばかりでなく、英語も輸出すると言ったんです。(笑)

戸塚 ほんと。「ナイター」とか「ホーム」なんて輸出したいわね。

外山 「ナイター」も、私、十年来そう思っていたんですが、それが十五、六年前に和製英語であることが分かって、NHKなんかいっせいに使うことをやめました。このごろまたちょいちょい出てきたのは、やはり使わずにはいられないところがあるのではないかと思えますね。これは一つのおもしろい例で、使ってもいいのではないかと思えます。

村尾 悪い言葉ではないし、不愉快でもない。

岩淵 むしろ緩りから言う、向こうの人には分かるわけですね。すぐ意味がとらえられる。misfit がつく

ので、二つの要素の組合せとして。しかし、日本人は他の語と関連のない孤立したものとしてナイターを受け取る。

戸塚 野球だけしか使っていない。これは、日本文化の多様性と言うか、包容力の豊かさ、文化的胃袋の強さと言うか、医学的な胃腸病患者はたくさんいるのに、文化的な胃袋、消化力がこんなに強い民族はいない、ということの現れですよ。

石綿 旺盛な吸収力、これはあると思います。

「アンパン」「トンカツ」は外来語?

戸塚 それはもう大したもんですよ。ところで、「トンカツ」みたいな言葉はどうですか。(笑)「トン」は漢語で「カツ」は外来語ですね。

岩淵 非常に応用力がある。

外山 「アンパン」「トンカツ」は物も非常にユニークですが、言葉も非常に独特なコンビネーションですね。「重箱読み」というのがあるが、外来語と漢語をチャンポンにして、あまり違和感がないですものね。「アンパン」「トンカツ」と言うと、何となく全部が外来語のような錯覚も与えますし、生活に非常に身近だからそんなに外来語のおいもしませんし。考えてみると、外来語が半分入ってるなということまで……。

戸塚 語学をやっているとそうだけど、そう言っただけで、普通の家庭の主婦は「アンパン」も「トンカツ」も本来の日本語だと思っていますよ。

外山 語呂がいい。パンの中に船せんを入れるというのも、独創的で……。あれは一時大変ポピュラーなものでした。戸塚 「カステラ」もそうですね。外来語でありながら、外国にはない。外国において外国人がお土産にカステラを買



石綿敏雄氏

ってきたくれと言うのですから。それから、松山の「タルト (tart) オランダ語」。チョンマゲ時代に「タルト」だったわけですよ。中に船せんを巻いて、渦巻うずまきカステラになっているも

のですが、松山の方は完全に日本語だと思って使っているわけです。「ラーメン」だって中国へ行ったらないですよ。あれは日本のものですね。そういう言葉は、たくさんありますよ。

岩淵 いづろから「ラーメン」って言い出したんですか。私らの時は「支那そば」と言ったんです。「支那」がいけないと言うので「中華そば」……。ラーメンは近年でしょうね。

戸塚 いろいろ生活している上で、年齢差とか地域差とかで、随分外来語を受け取る側が違ってきているのではないかと思います。

外来語はどのくらい使われているか

石綿 単語によっても違うと思います。例えば、さっきおっしゃった「アンパン」みたいなものは、非常に日本語化して、だれも「パン」の部分について外来語だという意識を持っていないが、例えば「パーソナル・テレビ」とか「パーソナリティ」となると、相当外来語らしいという意識を持つ。そういうふうに、単語によってもさっき戸塚さんがおっしゃったような違いがあると思います。

また、同じ単語を取り上げて、いろいろな生活をしている人がいて、その生活範囲の違いに応じて、よく知っている人もいれば、余り知らない人もいます。そのバラエティ



村尾清一氏

が非常に大きいのではないかと気がしますね。特に、現在では、方言つまり地域性というものが比較的になくなってきたのに対して、職業生活上の違いは非常に大きくなってきてい

る。職業職業で専門語を持っていて、その専門語が場合によつては新聞紙上を急ににぎわすことがありますね。現在ですと、例えば「PPM」という単語が急に出てきたり、「オキシダント効果」というような、今まで全然知らなかった言葉が急に現れたりして、それが非常に広まるということがありますね。

だから、専門用語というものをそれぞれの人が違った生活に応じて、使っている。日本語が分化しているという感じですね。それで、外来語がたくさんあるとか、外来語は分からなくて困るとか、そういうことを引き出す一つの原因になっているのではないかという気がします。

村尾 普段一般人でどのくらい使っているんでしょうね。

石綿 どういう分野でということもあると思いますが。

村尾 今日新聞を見たら、一ページに大体六十語ですね。これは昔からほとんど変わりません。今日のある新聞

を見ますと、例えばパーティー、ホテル、システム、スト権、正式ルート、タイミンク、ワクチン、メニュー、データ、レントゲン、カルテ、サーピス、サラリーマン、ナショナル・ミニマム、シンク・タンク、マスコミ、それからミサ……。そんなので、大体各ページ六十語ぐらいです。

岩淵 延べで六十語であつて、違ったものではないですね。

村尾 いや、延べではなく、六十種ぐらいです。同じ言葉はそうたくさんは出てきません。

岩淵 国語研究所で、新聞の一年分の語彙調査をやつた。これは全部整理していませんが、それによりますと、頻度数が高い一番目がビル、以下順にテレビ、A、キロ、メートル、ニュース(「ニュース」ではない。)(笑)カラー、スポーツ、バス、B、ラジオ、ガス、ホテル、ドル、ゲスト(昔はこんな語は少なかった。)、トン、プロ……。

村尾 「プロ」って、物すごくあるんですよ。

岩淵 八種類くらいありますよ。

村尾 プロフェッショナル。

岩淵 プログラム、プロダクション、プロバガンダ、プロレタリア……。続いて十八番目からメーカー、リクエス、サーピス、センター、ホール……。二十五番目がデパート。二十六番目にセンチ、ピアノ、ミュージック、ス

ターの四語。三十番目に「バー」……。

村尾 こういう言語は普段我々も使っていますね。

岩淵 しょっちゅう使っているものですね。

戸塚 しかも、今おっしゃったものの、少なくとも七割近くは国際的に通用する語です。世界中で通じる。しかも

「バー」と言うか「パール」と少しなまるのも入れると、九割近い。

岩淵 「テレビ」と「ラジオ」は困るでしょう。

戸塚 そのままでいいですよ。

村尾 「レディオ」ですね。

戸塚 「レディオ」は英語だけであって、むしろ、「ラジオ」の方が広い範囲です。「テレビ」は「テレビジョン」ですが、「TV」と書いて見せれば、大部分のところは通用します。

村尾 書かないと、「TB」。結核、つまりツベルクルローゼ(Tuberkulose)になってしまう。



戸塚文子氏

戸塚 日本人は「ヴィ」

の発音が悪いから。むしろ書けば大概のところは通用しますよ。あの略字は皆使っていますから。そういうのを含めて、しゃべるか書くかすれば通じるのは、

国際通用語ですよ。

岩淵 頻度数の高いところにそういうのがあって、もつと頻度数の低いところに行く、かなり我々の知らないものがありますね。

石綿 頻度数の高いところでは、どちらかというと、単位に関するものが意外に目立ちますね。

戸塚 それは、ヨーロッパへ行ったら全部通じます。

ヤード・ポンドはイギリスだけでしょう。後は皆いわゆるメートル法ですよ。

しかも、イタリアなんかキログラムと言わないでいいですよ。日本人と同じようにキロがいい。略語で通用する。ただ、半キロと言う時に「メゾ・キロ」と言う。「半」は何と言うんだろうと思って苦労したことがあります。五百という言葉をまだ覚えないうちに市場へ買物に行った。

一人だから、肉を一キロ買うと多過ぎるので、半キロ買いたい。ウノキロ(ウノ(unno)はイタリア語。一)という言葉は知っていても、半キロというのを知らない。行ってまだ一日目か二日目の朝、半と言えば五百グラム買えるのになあと考えて、ために「メゾ・キロ」(メゾ(mezzo)はイタリア語。なかば)ってどなってみたら、「シ、シニョーラ」と、たちまち五百グラム買えた。だから、音楽用語の中にも活用すれば幾らでも使えるのがある。一つの例ですよ。

石綿 それを逆に言いますと、外来語をたくさん持っているという事は、外国語を習う場合に便利なのもあるのですね。今おっしゃったように「メゾ・キロ」というのでちゃんと生活出来る。特に英語なんか習う場合、もちろん和製英語というんで障害になることはあるが、全体としてはやはりずっと楽だと思えますね。

岩淵 さきほどの私らの調査は、話しているものではなくて、書いたものについてですが、雑誌で調べた場合には、昭和三十一年の雑誌ですと全体の約十%が外来語です。それが新聞では、四十一年の新聞ですが、少し増えています。

石綿 十三%です。少しこの数字は問題がありますが。戸塚 日常生活の話し言葉ではもっと多いのではないですか。

岩淵 そうではないかと思えます。それから、十%台といっても、服飾だとか、それぞれの関係によって違うわけです。婦人雑誌なんか割合たくさん外来語が出てくる。かえって総合雑誌などには余り出てこない。総合雑誌に出てくるような外来語はもとほドイツ語からのものを使いましたが、近年はドイツ語系はなくなりしたね。

戸塚 年齢層による差は大きいですね。

石綿 話し言葉だと英語などをどんどん入れてますが、文字に書く時は……。

戸塚 気を付けますからね。

石綿 そういふところもありますね。だから書かれたものの調査というのは恐らく一番低いレベルを見ていられる場合によつてはもっと使われる場面が多いのではないかと思います。

#### 女性と外来語

外山 女性関係の服飾とか料理とか、そういうところに大衆外来語は華やかですね。デパートへ行きますと、私たちが見て首をかしげるようなものがいろいろあります。このごろ言わなくなりましたが、靴下で「フルファッション」と言うのがあったでしょう。こっちは英語の教師ですから、フルファッションとは一体何だ、「完全流行」という意味かと思つたんです。(笑) それでデパートへ行ってフルファッションとはどういう意味かを聞いたところ、分らない。どこかの靴下メーカーに聞いたら、「フルファッション・ホイザリー」(full-fashioned hosiery)というので、足の形に沿って編み目を調節したという意味であつた。それだと辞書を引くと出てきます。フルファッションの語尾を取ってしまったフルファッションとは完全なファッションの意味で、形というよりは流行という意味にとれた。デパートでは、「これが一番流行の先端をいっているのではないですか。」なんて言うわけです。(笑) 私も



そういう疑いを少し持ったんですが。語尾が消えている。それから「デシン」というのも、「クレープデシン」、つまり中国風の絹というのですが、絹というのを落としてしまっている。

戸塚 クレープ・ド・シーム(フランス語で、*crêpe de Chine* 英語で *crêpe of China*)。

外山 ド・シームというのをデシンと言ったもんですから、縮みの、ちりめん風という意味なんです。中国風と言うだけですから、物を知っていれば分かるが、何が中国風なのか分からないで、デシン、デシンと言っていますね。これもデパートで聞いたら、デシンというのはこういうものだと、物があるから分かりますが、あの上によら下がっている字を手掛かりに考えると、非常におもしろいというか、想像力をかき立てられる、というか……。

岩淵 やはり英語を御存じだからでしょう。

外山 非常に気になります。こういうことを教室で聞かれたらどうしようかと思つて。(笑) だからフルファッションもデパートへ行つて聞いたわけです。こういう言葉は元があつても少し変形したり、適当に訳したりいろんなことをするんですね。

岩淵 昔の「モーニング」とか「ソフト」式なものです。

村尾 フランス語で既製服のことを「プレタポルテ

(*prêt-à-porter*)」と言いますね。しかし、この言葉も、フランス人は余り言わないでしょう。普通日本人が既製服とかレディメイドと言うくらいにしよっちゃうり使う言葉ではないですね。

石綿 プレタポルテとは服飾誌に発表されるくらいの高級品、いわゆるオートクチュール(*Haute couture* フランス語)というところで大衆版を出したものに限られる。ところが日本ですとデパートなどどこへ行つても皆そうです。

村尾 既製服は全部プレタポルテ。

石綿 結局あれはフランスの服飾組合があつて、その組合に加盟しないとオートクチュールと言えないらしい。日本ではそういうふうに言つてしまふんです。

村尾 高級婦人服は全部オートクチュール。

石綿 とところがニュージランドの人に聞くと、ニュージランドというか英語圏ということだと思ふんですが、やはりオートクチュールと言ふんだそうです。それはフランスのような高級品を言うのではなくて、日本と同じように言うらしい。

村尾 婦人服なら全部オートクチュール。

石綿 そこまではいかないかもしれませんが、少し高級だと全部そういう名前を付けてしまふ。

村尾 デパートくらいなら全部オートクチュール。